

長野県植物誌改訂 研究史資料 3: 丸山 利雄

中村 千賀*

前号に続き、長野県内で活躍された植物研究者を紹介する。今回は、長野県植物誌(1997)で「人物を中心とした研究史」を執筆された、丸山利雄先生を紹介する。本稿をまとめるにあたって飯山市の高橋勸氏には貴重な資料や原稿を提供していただいた。深く御礼申し上げる。

参考・引用文献

- 丸山利雄 1996 迎米寿之記, 雉子発行所
高橋勸 2000 飯山地方の一世にわたる植物研究の概要, 高井 132: 37-42
高橋勸 2007 奥しなの植物研究紀行(その一), 奥信濃文化 7: 10-16
中村鉄治 2006 丸山利夫先生を悼む, 高井 154: 65-68
飯水教育会人物誌委員会 2019 植物学を極め人としての研鑽に勤め続けた丸山利雄先生, 信濃教育 1596: 25-48

丸山 利雄氏(1908-2005)略歴

1908 年(明治 41 年)長野県下水内郡秋津村(現飯山市)生まれ

1928 年(昭和 3 年)に長野県師範学校専攻科(博物科)を卒業。以降、県内の小・中学校などで 36 年間教職に従事。1930 年(昭和 5 年)、下高井教育会の「植物分布調査委員」となり、以降、主に飯山市内、下高井・下水内郡内の植物調査を行う。

1964 年(昭和 39 年)4 月から信濃教育会理科教科書研究室主任を務める。退職後、信濃教育会臨地講習「植物」講師、長野県文化財保護審議会委員、長野市文化財保護審議会委員、中野市文化財保護審議会委員、野沢温泉村文化財保護審議会委員などを務める。

1981 年(昭和 56 年)、環境庁長官より「自然環境の保全並びに自然保護思想の普及啓発への尽力・自然保護行政の推進」について感謝状を授与される。また 1987 年(昭和 62)、内閣総理大臣より勲五等瑞宝章を授与される。

2005 年(平成 17 年)死去(97 才)。

丸山利雄先生は、明治 41 年(1908)に下水内郡秋津村(現飯山市秋津)で教員の両親のもとに生まれた。長野県師範学校に入学し植物を専攻したのは、父親の蔵書の中に「最新図説 内外植物誌」(斎田功太郎・佐藤礼介編 1917)があり、植物の種類を調べることに親しんでいたことと、師範学校で牧野富太郎(1862-1957)の講演を聞いたことが大きく影響したという。特に印象深かったのが牧野氏のどどいつ「草を褥(しとね)に 木の根を枕花と恋して 五十年」で、自分も寿命が許すならば 50 年は植物を勉強してみようと、心に決めたそうである。専科では「植物学講話」(1932)を牧野富太郎と共に著した和田邦男、松本女子師範学校長や信濃博物学会長を務めた矢澤米三郎(1868-1942)に学んだ。

丸山先生は教職に就いた初期の頃から「教育力の根源は、各自の生活を教育一本に絞ること、扱う教科のうちの何かについて学識をもつこと、研究的態度を持つことが必要である」として、実践的な研究をする姿勢が教育に活かされるとの信念を持たれており、植物の調査研究に情熱をもって取り組まれた。最初の赴任地、下高井郡穂高小学校時代に、自然研究の分野の専門性を高めるため、慶応大学で開かれた東京生物学会の講習会に 2 週間出席している。また、昭和 5 年(1930)に下高井教育会の植物分布調査委員となり、当時松本女子師範学校教諭であった小泉秀雄氏(1885-1945)、平穏小学校(現山ノ内東小学校)教諭の横内齋氏(1895-1980)の指導を受ける。春から秋は休日を利用して植物の調査と採集をし、冬は日々の積雪量などを詳細に調べている。このころ、多いときで年 60 回植物調査に出かけ、標本を作られたという(写真 1)。また、この頃コシジタビラコを識別されており、横内齋氏の「信濃植物誌」(1983)178 ページの同種の項目に、「母種との差異を確実に見つけたのは丸山利雄氏である」と掲載されている。晩年の丸山先生の記述によると、昭和 7 年 7 月に小泉氏、横内氏と共に志賀高原から秋山郷にかけて調査をした際に、新潟県内の水田の溝でミズタビラコの種子に 2 種類ある

* 長野市立博物館分館戸隠地質化石博物館
〒381-4104 長野県長野市戸隠栃原 3400

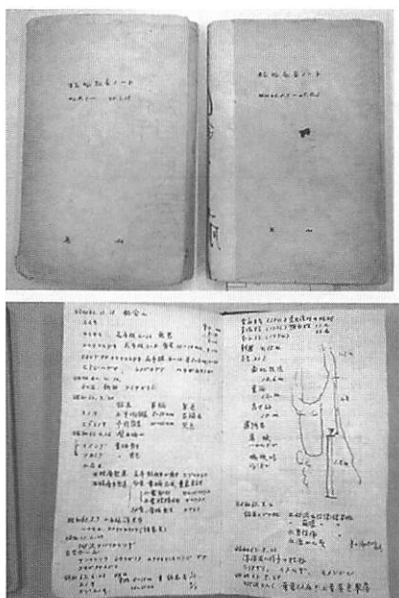


写真1. 丸山利雄先生の野帳。
現在飯山市ふるさと館が所蔵している。

ことを発見したが、小泉氏はその際「この辺のミズタビラコは、花序が二またになっているものが多いので、フタマタタビラコと言うべきであり、種子の緑の高くなっているものはウスミノフタマタタビラコ（白実ノ二股田平子）と言うべきであろう」と言われたが、それが発表されることはなかった、後に大井次三郎博士（1905-1977）によってコシジタビラコとして学名も発表された、とのことである。

こうした専門の研究活動については、教師個人にとどまらず、組織を作ってその中で考え方や技術を広め、伝統化することを掲げ実践されており、昭和21年（1946）に「下水内理科教育研究会」を組織している。昭和27年（1952）には下水内教育会の郷土誌調査委員会の中に生物調査委員会を設置し、広く郡内の調査を指導している。この調査に横内齋氏（当時京都大学附属木曽生物学研究所）、水島正美氏（東京大学大学院）が講師として参加されており、成果は昭和31年（1956）発行の「下水内郡植物誌」（水島・横内共著）としてまとめられた。

野外の調査だけでなく、様々な植物について名前の由来や方言、薬草など民俗利用、また万葉集や信濃史料などの古典からも多角的に研究され、多くの著作を残されている。朝日新聞や信濃毎日新聞紙上への連載も人気だった。そのため植物についての問い合わせも多かったようだが、佐久間象山の和歌中の「まつばな」について、また「柿の本卦歸り」についてなど、古文献などから丁寧に調べられるようすが著作に記されている。そうした深く探求される姿勢は、長野県植物誌（1997）の「人物を中心と



写真2. 平成10年（1998）に戸隠森林植物園内に建立された丸山利雄先生の歌碑。

した研究史」の中の詳細な記述にも示されている。今回丸山先生の著作をたどると、長野県植物誌の刊行の20年以上も前から研究史について調べられていることがわかり、その労作にこれまで大変助けていただいたと改めて頭が下がる。

次に教員としてのご活躍を簡単に記す。昭和3年（1928）に教職に就かれており、昭和15年（1940）からは師範学校の教員として理科の指導課程について執筆され、また戦後の新しい学制への切り替え時には、理科教育の指導主事、さらに教員免許法改訂に伴う講座の理科の講師も務められている。昭和18年（1943）にまとめた「児童の疑問と理科指導」は、文部省認定図書となり、戦後の教職員研修のための「教育心理」（文部省発行）にも多く引用されている。昭和26年（1951）からの飯山市立常盤小学校校長時代には、長野県の理科の小中学校の学習指導要領と小学校用教科書の編集委員を務め、戦後初の信濃教育会による理科教科書作成に大きく貢献されている。昭和39年（1964）からは信濃教育会の職員として、理科教科書編集主任を務めている。

長年にわたり重責を果たされる実直さと植物についての博識とから、昭和53年（1978）のやまびこ国体開催にご臨席された昭和天皇を、戸隠森林植物園でご案内する役を県知事から請われた。10月14日当日は晴天で、2時間弱のご案内だった。このときのことを昭和天皇は「秋ふけて緑少なき森の中 ゆもとまゆみは赤くみのれり」と詠まれ、また丸山先生も「古希のわれ喜寿の陛下のお供して 戸

隠の森に草木学びつ」と詠み、いずれも園内に歌碑が建てられている。丸山先生の歌碑（写真 2）は教え子たちの寄付によるものである。

専門分野を深め、追求する姿勢を生涯貫かれ、学ぶ姿勢の大切さやその在り方を、後輩や子どもたちに伝えてきた。また戦後の教育制度の改革の中で、長野県内の植物調査を教員が中心に組織的に行っていく道筋をつくった一人としての功績も大きい。以下に丸山先生から教育者として、また植物研究者として指導を受けた、高橋勸氏による「丸山利雄先生との思い出」を掲載する。

～丸山利雄先生との思い出～

丸山先生が下高井郡穂高村の穂高尋常高等小学校から下水内郡太田尋常高等小学校へ赴任されたのは昭和 8 年 4 月、私が太田小学校へ入学したのは昭和 10 年で、入学当初のことは知る由もありませんが、丸山先生は太田小学校に 7 年間お勤めなので、その間二つの忘れない事柄があります。太田地区は関田山脈の麓で越後の海まで約 30km、冬の季節風が山脈を超えて大雪を降らせます。私は太田地区五束（大昔は「いづか」と訓じたが現在は「ごそく」と訓じている）に住んでおりますが、毎年降雪前に私宅前の耕地に 4 m まで測定できる雪尺（積雪計）を立てて毎日の積雪を測っています。最近の最高値は平成 24 年 1 月 30 日の 3 m 50 c m でしたが、昔はもっと降ったような気がしています。そんな中、今のような筒の長いゴム長靴も無くゴンゾとかコンゴと呼ばれた藁沓（小学校でも高学年児童は学校で製作した）を履いて登校していました。

丸山先生は冬になると五束の最北端（一番学校に近い）にある水野晴光家に下宿しておられ、朝雪を踏んで登校する私たちの列の中で会話を交わしながら出勤されていました。私の中学年頃の思い出です。太田学校での次の思い出は、やはり私の中学年頃、丸山先生が校舎と講堂に挟まれた中庭に「生類塔」を立てる工事を業者と共にされているお姿がボンヤリと脳裏に焼き付いております。私が長じて太田小学校の助教諭時代、高学年担任で理科のカエルやコイ、ニワトリなどの解剖の授業の後、子ども達と一緒に動物の亡骸を生類塔へ埋葬しました。生類塔が花に囲まれていたこと、その花園にトロロアオイがあったことを覚えています。

常盤小学校校長丸山利雄先生のお誘いで昭和 28 年度より同校へ初の教諭として赴任しました。常盤小

学校では県教委からの依頼の「理科学習における技能修練の指導」のテーマの下、3 年間かけて丸山利雄校長を先頭に研究主任の丸山英先生、小湊光直先生（共に故人）が中心となり研究を進められました。上曜、日曜が殆ど無かったように記憶しております。

実験学校の期間も終わり丸山校長先生の「嫉捨越え」のご指導に賛同して、南信の学校への転勤を希望したところ飯田市立竜丘小学校へ転勤が決まり、下伊那教育会の生物委員会に属し遠山谷、赤石山系の植物調査、そして諏訪市高島小学校へ転じ主に八ヶ岳、霧ヶ峰の調査に携わりました。飯山の地へ戻り丸山先生が山之内東中学校長時代、ある時先生から東中の校長住宅にいるから遊びに来なさい、という呼びかけがあった何うと「今夜泊まってゆっくりしていけや」のお言葉に甘えて先生と久しぶりに一献を交わしながら植物の話をしました。この時最初に丸山先生の発見とされるコシジタビラコについてのお説を記憶しております。

丸山先生は豊井中学校長を経て昭和 39 年 3 月 31 日教職から去られ、信濃教育会の職員になられ信濃教育会出版の理科教科書編集主任として、併せて「理科学習帳」の編集にも携わっておられ、その改定の委員に私も参加させて頂きました。土曜、日曜を始め多忙になると夜間まで延長された会合もあり、信濃教育会の寮への宿泊もありました。寮の責任者は大口さんといって飯山市太田地区北条の出であることや、寮の庭に北米原産のタイサンボクが大きな白い花を咲かせていたことを覚えております。理科学習帳編集会議で野菜の「キュウリ」の文字表現が問題になりました。今までの学習帳には「キウリ」となっていましたが、私の発言で「キュウリ」に変わったことも思い出の一つです。

また今でも忘れない思い出は、秋津小学校勤務の昭和 42 年頃、先生から「宿直の時、中山さん（用務員）に頼んでおいて、ちょっと家へ来て下さい」とのお誘いの電話があり、ある宿直の夕方、秋津地区蓮（はちす）の先生のご自宅へ伺いました。先生はじめ奥さん、子供さんの家じゅうのお迎えで恐縮しました。この時先生から師範学校専攻科時代に求められたという、三好学 理博著「最近実験植物学」「植物講義 上・中・下」の寄贈を受けました。この四冊は最近飯水教育会館へ再寄贈させて頂きました。先生は平成 17 年 10 月 25 日に、97 歳でご逝去、葬儀は 27 日でした。

令和 2 年 1 月 15 日 先生のご冥福を祈りつつ

高橋 勸

業績リスト

以下に丸山利雄先生の著書や論文をまとめた。学校教育に関するものも多数執筆されているが、ここでは主に植物に関するものを挙げた。代表作、「しなの植物考」(1972、写真3)は1970～71年に信濃毎日新聞紙上に毎週1種類ずつ植物を紹介した連載をまとめたもので、名前の由来や和歌からの引用など、細かな解説がされているが、教科書編集に携わった先生の文章は丁寧で親しみやすい。この本の人気から「続しなの植物考」(1974)、「続々しなの植物考」(1975)が続けて出版されている。また丸山先生は昭和天皇の戸隠でのご案内を記念して、カラー「戸隠の植物」(1982)を出版された。掲載された植物の写真のほとんどは尾台喜貞氏(当時県林務部職員、樹木医)が撮られたものである。

【著書】

豊田村の生物(1963)丸山利雄著・発行
 信濃の植物・秋津の生物(1967)丸山利雄著・発行
 私の歩いた道 1968 丸山利雄著・発行
 しなの植物考(1972)信濃毎日新聞社
 続しなの植物考(1974)信濃毎日新聞社
 続々しなの植物考(1975)信濃毎日新聞社
 しなの植物ごよみ(1977)信濃毎日新聞社
 戸隠の植物(1982)信濃毎日新聞社
 しなの植物夜話(1985)信濃教育会出版部
 迎米寿之記(1996)雉子発行所
 飯山の巨樹・名木と戸隠建碑の記(1999)雉子発行所

【共著】

豊田村誌(1963)豊田村誌編集委員会編, 豊田村誌刊行会
 秋津村誌(1966)江口善次編, 秋津村誌編集委員会
 長野県百科事典補訂版(1974)信濃毎日新聞社
 野沢温泉村誌(1974)野沢温泉村誌編集委員会編, 野沢温泉村
 信濃風土記(1979)NHK長野放送局編著, 株式会社和広
 改定 長野市の文化財(1979)長野市教育委員会編, 長野市の文化財図録刊行会
 中野市誌自然編(1981)中野市誌編集委員会編, 中野市



写真3. 丸山利雄先生が書かれた植物に関する代表作。

千国街道のユキツバキ(1982)田中欣一編, 塩の道・千国街道, 銀河書房
 雪国の自然(1986)飯水教育会編・発行
 飯山市誌 自然環境編(1991)飯山市誌編纂専門委員会編, 飯山市・飯山市誌編纂委員会
 野沢温泉の植物方言(1995)長寿社会開発センター 野沢温泉分会・野沢温泉村教育委員会 編・発行
 人物を中心とした研究史(1997)清水建美監修・長野県植物誌編纂委員会編著, 長野県植物誌, 信濃毎日新聞社

【論文等】

「書斎」(三省堂)
 1938 二三の植物方言 2(8): 14-16
 「信濃 第二次」(信濃史学会)
 1945 植物の地方名 51・52: 18-32
 「伊那路」(上伊那郷土研究会)
 1974 田中芳男翁のこと 18 (12): 456-457
 「伊那」(伊那史学会)
 1978 長野県植物学者 田中芳男抄伝 608: 25-28
 「文化財信濃」(長野県文化財保護協会)
 1992 飯山市の巨樹名木 19(3): 21-23
 「信濃教育」(信濃教育会)
 1940 理科学習帳の植物名について 647: 23-31

- 1960 信濃教育会と理科教育 878: 38-41
1979 戸隠の植物 1106: 12-19
「高井」(高井地方史研究会)
1976～1979 下高井植物方言考(一)～(十) 37
～46
1979 シナノキと信濃国 47: 33-36
1979～1983「信濃史料」に記録された植物(一)
～(十五) 48～62
1983「信濃史料」に記録された植物(十六)・(完)
64・65
1984 万葉人の植物観(上)・(下) 67・68
1985 信州の薬草 70: 29-32
1985 雛祭りとももの花 72: 14-16
1985 植物名誤称 73: 13-15
1986 長野県内樹木天然記念物考 74: 21-24
1986 俳人一茶と薬草 75: 15-18
1986・1987 長野県植物研究史(一)～(完) 76
～80
1988 みさやま(御射山)さん 82: 45-47
1988 センニンソウについて 84: 25-28
1988・1989 年中行事の植物(一)・(二) 85・86
1989 故 天皇陛下をしのぶ 87: 1-3
1989～1990 年中行事の植物(三)～(七) 88
～92
1990～1992 北信巨樹名木考(一)～(七) 93
～99
1992 高社山の植物 100: 87-92
1992・1993 北信巨樹名木考(八)・(完) 101・
102
1993 飯山市の巨樹名木 103: 32-38
1993・1994 郷土植物名考(一)～(完) 105～
107
1994 カキの本卦帰り 108: 51-55
1994 イチョウの話 109: 38-44
1995 飯山市秋津地区の寺社叢樹木考 110: 1-8
1995 中野の旧地方事務所前のメタセコイア 113:
23-28
1998・1999「長野県植物誌」刊行のこと(一)～
(三) 124～126
「長野県植物研究会誌」(長野県植物研究会)
1976 深雪知飯山の常緑低木 9: 37
1976 長野県植物研究者伝 1 田中芳男抄伝 9: 63-65
1977 長野県植物研究者伝 2 斎田功太郎抄伝 10:
137-138
1978 長野県植物研究者伝 3 河野齡蔵抄伝 11: 76-
77
1979 長野県植物研究者伝 4 矢沢米三郎抄伝 12:
55-56
1980 長野県植物研究者伝 5 白沢保美抄伝 13: 47-
48
1981 長野県植物研究者伝 6 小山海太郎抄伝 14:
53-54
1982 長野県植物研究者伝 7 田中貢一抄伝 15: 54-
55
1983 長野県植物研究者伝 8 小泉秀雄抄伝 16: 50-
52
1984 長野県植物研究者伝 9 横内斎抄伝 17: 48-49